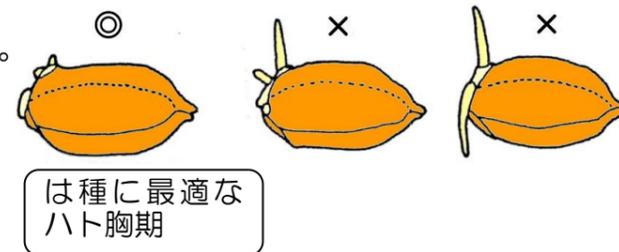




種まき作業が始まります。育苗中の温度・水管理をしっかりし、丈夫な苗作りに努めましょう。
用・排水路の整備、畦塗りや畦畔の補修など漏水防止対策を行いましょ。

浸漬及び催芽

- 水の交換は、3日に1回程度の間隔で行い、種もみに十分な酸素を供給しましょう。
- 水の交換と同時に、上下の入れ替えも行い、種もみ袋の上下で水温差が生じないようにしましょう
- 催芽温度…約30～32℃で16～20時間程度。
- ハト胸程度とし、芽や根の伸ばしすぎは、播種作業時に折れ、生育の遅れの原因となります。



は種に最適なハト胸期



「はれわたり」の注意点

催芽は種籾の半分以上がハト胸状態になるまで確実にいきましょう！

床土の準備 10a 当たり、35箱を目安に準備しましょう。

床土名	資材名	1箱当たりの使用量	1袋(本)のできる箱数	使用方法・注意点など	
山土の場合	サイコー11号	20g	250箱/1袋(5kg)		
	とかすだけ	1ℓ	500箱/1袋(10kg)	水500ℓに1袋を溶かしてかん注する肥料です。	
	どちらか	ナエファイン粉剤	8g	125箱/1袋(1kg)	土壌混和。苗立枯病対策。
		ナエファインフロアブル	1ℓ	200箱/1本(100ml) ※2,000倍	播種時かん注。苗立枯病対策。
人工培土の場合	無肥料培土	床土2.7kg 覆土0.8kg	約5.7箱/1袋	無肥料ですので、必ず肥料を混合して下さい。	
	苗の土	床土2.1kg 覆土1.2kg	約6箱/1袋		
	軽量培土	床土1.0kg 覆土0.75kg	約11箱/1袋		
	どちらか	ナエファイン粉剤	6g	166箱/1袋(1kg)	土壌混和。苗立枯病対策。
		ナエファインフロアブル	1ℓ	200箱/1本(100ml) ※2,000倍	播種時かん注。苗立枯病対策。

は種

- は種量は箱1枚当たり催芽籾120g程度を目安にしましょう。(中苗の場合)
- 厚まきすると、根張りが悪く徒長苗になり、苗立枯病等の病気にかかりやすくなります。また、田植え後に活着が悪く、代枯れ症状を招く恐れがあります。

育苗管理

ハウスは乾燥に、苗代は加湿に気をつけましょう

生育ステージごとの温度管理	出芽期 は種5日後	日中の温度 35℃以下	<ul style="list-style-type: none"> ●シルバーポリトウなどの平張り被覆は、8割程度の出芽を確認したら取り除きましょう。 ※被覆期間が長すぎると、ヤケたり、伸びすぎて病気にかかりやすい弱い苗になるので注意しましょう。 ●折衷苗代では、<u>高温・過湿</u>にならないよう換気と排水対策(溝切り)に努めましょう。 	
	～1.5葉期 は種6～15日後	日中の温度 30℃前後	<ul style="list-style-type: none"> ●日中は、30℃以上の高温にならないよう積極的に換気を行いましょ。 	苗立枯病対策 高温と過湿により発生しやすくなります。 発生した場合、ナエファインフロアブルの1,000倍液を箱当たり500mlかん注しましょ。 ※青天の霹靂で、すでに粉剤・液剤を使用している場合は 使用できません。
	1.5～3葉期 は種16～30日後	日中の温度 25℃程度	<ul style="list-style-type: none"> ●2.5葉期前後は生育が不安定になりやすいため、日中25℃以下、夜間は5℃以上になるように管理しましょ。 ●かん水は箱土が乾燥し葉先が巻き始めた頃、朝方にたっぷりかん水しましょ。水を定期的にかけすぎると、徒長した軟弱な苗になるので注意しましょ。 ●追肥が必要になった場合は、1箱当たり硫酸5gを500mlの水に溶かして追肥しましょ。 ※追肥後は必ず水洗いしてください。 	